

授業概要

～韓国語と韓国文化を楽しむ～

言語と文化は密接に関係しており、言語にはその国の生活文化が反映されている。外国語を学ぶというのは、まさに他者の文化を理解する第一歩で、多文化・多言語社会である現代において、その重要性は益々高まっている。韓国語に「시작이 반이다（始まりが半分だ）」ということわざがあるが、「何か物事を始めさえすれば、半分は成就したも同じだ」という意味である。このことわざのように、日韓社会の様々な問題を考える第一歩としてハングルと韓国文化を学ぶことで、日韓の相互理解がさらに深まることを目的とする。授業では、毎回、多分野の文化説明文を読んだり言語活動をしたりした後、その内容を理解しているか確認をする。様々な言語文化活動から韓国文化の多様な姿を体験できると考える。

授業計画

第 1 回	授業の進め方、評価法の概略、初級の復習、インターネットの検索及びハングル入力方法
第 2 回	言語と文化―「韓国語と日本語の相違」
第 3 回	あらゆる場面でのあいさつ *リスニング・文化体験①（30 分）
第 4 回	地形と気候―「天気・季節に関する表現」 *リスニング・文化体験②（30 分）
第 5 回	韓国の夜食―「配達文化」 *リスニング・文化体験③（30 分）
第 6 回	伝統音楽・現代「K-POP」の人気 *リスニング・文化体験④（30 分）
第 7 回	学校生活―「韓国の大学生と入試競争」 *リスニング・文化体験⑤（30 分）
第 8 回	最新ニュース―「韓国の今を知る」 *リスニング・文化体験⑥（30 分）
第 9 回	冠婚葬祭 *リスニング・文化体験⑦（30 分）
第 10 回	韓国文学―「詩・エッセイを書いてみる」 *リスニング・文化体験⑧（30 分）
第 11 回	政治と経済 *リスニング・文化体験⑨（30 分）
第 12 回	文化遺産「記録文化」 *リスニング・文化体験⑩（30 分）
第 13 回	韓国的感情表現―「情」
第 14 回	歴史・映画①「弁護士―国家・国家権力とは何か」
第 15 回	歴史・映画②「弁護士―戦後の韓国社会を中心に」・まとめ
第 16 回	試験

到達目標

1. 韓国語の長文を読んで理解し、韓国語で自分の意見が言えるようになる。
2. 映画やドラマ、音楽などの韓国語が大いに理解できるようになる。
3. 言葉の背景にある韓国文化についての知識や理解を一層深める。
4. 韓国社会を通して自国の文化をも知る。

履修上の注意

1. 外国語の授業なので、グループで行う活動など授業への積極的な参加が求められる。
2. 「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の履修者が望ましい。
3. 履修した場合は、韓国語能力試験2～4級が受けられるレベルになる。

予習復習

1. 事前学習は、プリント教材の新しい単語を調べて、提示されるページを音読してすること。
2. 事後学習は、提示される課題や復習をすること。

評価方法

平常点（50 点―授業の参加度・小テスト・課題・会話演習・発表 1 回）、試験（50 点）を予定している。

テキスト

テキストは使用せず、ビデオ教材など、学生のレベルに合わせたプリント教材（韓国語で書かれた多様な分野のプリント教材）を配布する。